

令和2年度
2回目

牛ウイルス性下痢(BVD)の バルク乳検査を実施します！

近年BVDの発生が全国的に増加しており、埼玉県内でも乳用牛・肉用牛ともに摘発事例があります。埼玉県では持続感染牛(P1牛)を早期発見するため、令和2年3月から半年に一度、県内の全酪農家を対象にBVDのバルク乳のスクリーニング検査を無料で実施しています。

1. 検査材料

バルク乳(原則、クーラーステーションで採材)

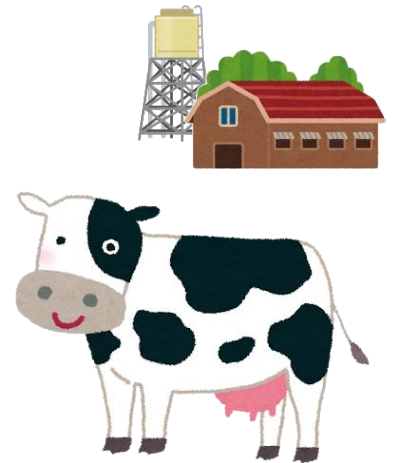
2. 採材日時

令和3年3月24日(水) 10時~

3. 検査方法

遺伝子検査

※バルク乳が陽性と判断された場合、
当該農家飼養個体の全頭検査を実施します。



牛ウイルス性下痢(BVD)について

✓ 牛ウイルス性下痢とは？

BVDウイルスの感染による牛の病気で、繁殖障害や異常産、下痢などを起こします。白血球に感染するため免疫力が低下し、他の感染症にかかりやすくなります。

✓ 感染経路は？

ウイルスを含む分泌物(唾液、鼻汁、糞便、乳汁、精液等)を介して感染します。また、妊娠中の母牛から胎児への感染もあり、特に妊娠100日前後の牛が感染すると産子がP1牛になります。

✓ 持続感染(P1)牛とは？

生涯ウイルスを排出し、見た目は健康、もしくは発育不良や下痢の症状が見られます。P1牛からはP1牛しか生まれず、回復はしません。そのため、気が付かないうちに農場や取引先にBVDがまん延してしまう可能性があります。